

## [講演要旨]

# 台湾における道教信仰と歴史地震

塩川太郎(修平科技大学 観光與創意学院 応用日語系)・  
林麗華(建国科技大学 生活科技学院 応用外語系)

## §1. はじめに

台湾では古くから民間信仰として道教が広まり、各地に堂や廟が建てられている。道教には多くの神が存在し、媽祖であれば航海の守護神(現在は一般生活を守る神として変化している)、文昌帝君であれば学問の神など、崇拝の目的が神によって異なっている。また、一つの廟に複数の神像や仏像が置かれていることがあり、道教と仏教が融合している廟も多い。

このように台湾では災難や願い事がある場合は、道教の神に祈ることが多い。そのため地震の災害時も道教信仰を頼りにしていたと考えられるが、地震関連の神や廟は知られていない。

これまでの台湾の廟における歴史地震の痕跡に関する調査では、修復や改築の際に設置する重建碑(再建碑)や寺廟の歴史を記した沿革碑に過去の災害について記されていることが分かった(塩川 2018)。しかしながら、これらは地震被害の記録があるのみで、地震災害から守られるような目的(御利益)がある廟は知られていなかった。

台湾の廟では廟名に守護の役目と関連する名が付く場合が多い。例えば、治水の神である禹王や屈原は水仙尊王と呼ばれ、その廟は水仙宮と名付けられている。そのため地震と関連する廟がないか「地震」に関する単語で廟名を検索し調査したところ、「震安宮」と「震興宮」において地震との関連が見つかった。そこで今回は台湾の地震災害に関する道教の廟について報告を行う。

## §2. 地震と関連を持つ廟



図1. 羅東震安宮

(2018年5月筆者撮影)

### 1) 震安宮

#### ① 羅東震安宮(宜蘭県)

創建:1837年, 主神:天上聖母(媽祖)

1922年9月2日から翌年3月5日まで宜蘭南部で群発地震が起こり、合計10名以上の死者が出ている。これらの地震により羅東の媽祖廟が損壊し、再建の際に「震安宮」と名付けられた。

#### ② 保生大帝震安宮(嘉義市)

創建:1875年, 主神:保生大帝

幾度も起こった地震で廟が被害を受けたことから耐震補強を行ったところ、以後、大地震でもこの廟だけ被害が無かったということが記されている。廟名と地震の関係は不明である。

#### ③ 嘉邑震安宮(嘉義市)

創建:不明(1876年以前), 主神:玄天上帝

1876年に玄天上帝より大地震が起こるので避難せよというお告げがあり、その後に起きた地震(1876年12月の嘉義地震と思われる)で民衆が災害を免れたという話により「震安宮」と名付けられた。

### 2) 震興宮

佳里震興宮(台南市)

創建年:1723年, 主神:清水祖師

1862年の地震(台南佳里を震源とするM7.0の地震)で廟が損壊し、1868年の再建時に「震興宮」と名付けられた。

調査で「震安宮」と呼ばれる廟は前述の他に8か所あることが分かったが、地震との関連性は不明である。

## §3. まとめ

今回の調査では地震と関連を持つ廟が4か所あることが分かった。これらの廟はいずれも清朝統治時代に建てられ、過去に幾度も被害地震が発生した地域(宜蘭・嘉義・台南)にあった。このことから清朝統治時代の台湾では地震災害への対応の一つとして民間信仰の道教の力に頼っていたことが示唆された。

### <参考資料>

塩川太郎, 2018, 寺廟に残された台湾の歴史地震 -1848年(台湾)彰化地震の跡-, 歴史地震, 33:21-30.

地理資訊科學研究專題中心, 文化資源地理資訊系統(Cultural Resources Geographic Information System), (<http://crgis.rchss.sinica.edu.tw/>).